

平成30年度 報告

AOSSA 福井市子ども家庭センター 子育て支援室 相談室

副室長 野路 昌美

当センター子育て支援室と相談室は、福井市地域子育て支援センターと福井市独自の家庭相談機能を持ち併せており、子育て家庭への支援について福井市と連携しながら日々事業運営に努めている。

【子育て支援室】

子育て親子の交流の場の提供等を柱として、子育て支援に関する事業を展開している。今年度、子どもの人数と同伴者(保護者)の人数を併せた総利用人数は、16,598人であった。当センターは駅前のシンボリックな建物にあり、県都中心地という立地から、市内外からの利用、アオッサへの立ち寄りや電車待ちの利用、帰省中滞在時や旅行中の利用、転勤家庭や外国籍家庭の利用など、多くの子育て家庭に気軽に利用してもらっている。地域の子育て家庭はもちろんのこと、このような特徴的な利用があるのは、年間300日以上開所しているからでもある。さて、当センターでは、利用者同士が交流をしたり、親子のスキンシップを深めたり、さらに親の子育て力を高められるように、専門講師を招いた子育てに関する講座や、地域のボランティアによる親子ふれあい講座など各種多様な講座を開催している。一方、子育て家庭の自主的な利用を待つだけではなく、地域に出向いて、親子の交流の場の提供や子育て情報の提供、地域住民との交流の場の提供などを行っている。これは、子育て家庭が孤立しないように働きかけることで、子育て不安の軽減や虐待の未然防止を図るための取り組みであり、特に未就園児のいる家庭については、より積極的により慎重に対応していくことを心掛けている。また、本学園学生らの保育人材育成などの学びの場として



仁愛女子高等学校体験学習

活用するとともに、学生など若者たちが将来親になることを想像してもらえることを期待し、利用者親子との交流の機会を積極的に設けている。

【子育て講座】

本学園教員等による子育て講座(表1)を開催した。

本学園の公開講座として取り組むことで、子育て家庭にも広く周知され、地域に開かれた開催ができるメリットがある。また、講師として各教員を招くとともに、各教員に学ぶ学生らが日夜勉強してきたことを自らが親子に届ける実践的な学びにもなった。

◆「えいごであそぼう」

子どもが英語にふれる機会を求める利用者の意見も多く、今年度は2回開催した。＜内容／うたあそび・絵カードを見てまねっこあそび・ペープサートの人形を見てあてっこゲーム・買い物ごっこ・雪だるま作り・ハンバーガー作り＞。参加者は、遊びの中で英語への関心を高めたい、子どもはどんなやりとりが出来るのかななどを期待して参加したという。野本先生のはつらつとした指導に、軽快な英語遊びのリズムの楽しさを身体で感じ、親子はその魅力に引き込まれていた。参加者からは、子どもの英語への接点の参考になった、日常では英語にふれることがないため良い機会だった、英語遊びとして親子で作りができたことが楽しかったなどの感想が寄せられた。野本先生に学ぶ学生も一緒に親子の遊びをリードしてくれたこともあって、子どもたちの英語への親しみやすさがより増したようだった。



幼児教育学科学生 体験学習



地区公民館出前講座

表1. 地域活動実践センター 公開講座「子育て講座」開催実績 (会場 AOSSA)

日程 (平成30年)	タイトル	講師	親	子	組
5月26日(土)	えいごであそぼう	野本 尚美氏	30	39	27
8月8日(水)	ベビーヨガ	飛石めぐみ氏	22	22	22
10月10日(土)	離乳食の話と相談	木内 貴子氏	18	20	18
11月17日(土)	えいごであそぼう	野本 尚美氏	25	28	20
12月5日(水)	虹色コンサート	木下 由香氏	59	59	56



子育て講座「えいごであそぼう」

◆「虹色コンサート」

親子のふれあい遊びや手作りコンサートを木下先生に学ぶ学生らが中心となって開催した。親子が家庭でもすぐに出来そうなふれあい遊びや簡単な手遊びなどが多く取り入れ、親子の時間が膨らむ内容であった。学生手づくりのアンパンマンの絵カードを使った遊びでは、曲に合わせて子どもたちが体を揺らして歌ったり飛び跳ねたりして、嬉しそうにリズムに合わせて遊んでいた。学生らの若々しく初々しくもある元気な笑顔と一生懸命なその姿勢に、親も子ども笑顔で楽しそうに参加していた。さらに、トーンチャイムの演奏では、聴く機会がないので嬉しかった、素敵な音色が心地よくリラックスできたなど参加者からの感想が寄せられた。学生らは、この日のために練習を重ね発表出来たことを大変喜んでいて、一方でその学生らの姿に、参加者は、今日からまた子育て頑張ろうと思えるエネルギーをもらえたと、我が子の顔をみて笑顔で話していた。



子育て講座「虹色コンサート」

【子育てサークル支援事業「はっぴいすmama」】

本事業は、転勤等により福井で生活をしている子育て家庭が、グループ活動を通して、子育てや生活環境などについて知らない土地での暮らしであるが故の困りごとや気がかりさ、生活情報などを共有し、子育て不安の軽減や孤

立の防止などを図ることを目的として3回シリーズで開催した。千葉や愛知、山口や北海道等の全国各地域から、転勤や結婚、夫の転職により移り住むことになった、7か月～1歳の子どもをもつ母親9名が集まった。福井に住んでからは、数ヵ月～3年程度とのこと。親戚や友達もいなくてママ友を作りたい、福井がわからないから親子で出かける情報が欲しいなど、知らない土地で孤立しそうな淋しさを何とかしたいという思いを持っての参加だった。各回テーマを変えてファシリテーターが話題提供を行い進めていった。特徴的な話題としては、夫の実家での離乳食作りの方法、帰省時の公共交通機関の各種サービスや利用方法、実家に持っていく手土産の選び方などがあがっていた。このように、メンバー同士で話題を展開し新たなテーマがみつかり、話し合いを深めていく中で、同じ不安や悩みをもっている人がいることを

確認し合い、自分が抱えている不安や悩みを理解してもらえたという安心感が得られ、仲間意識が芽生えていった。この取り組みは、子育て家庭がつながりあうためのきっかけ作りであって、継続的な交流が持てることや新たなメンバーを紹介するなど橋渡しの支援を引き続き行っている。



「はっぴいす mama」情報交換



「はっぴいす mama」

【相談室】

相談室では、子ども相談、乳幼児期の子育てに関する電話相談を実施するとともに、以下の(表2)に掲げる項目について相談対応を行っている。相談方法は、来所面談、電話、家庭訪問など柔軟に対応し、福井市子ども福祉課をはじめとする各関係機関との連携した対応も欠かせない。

表2. 相談室利用実績 (のべ件数)

	子ども相談	女性相談	子育て ママダイヤル	小児科相談	弁護士相談	合 計
平成30年度	1,832	921	197	69	27	3,046

単位(件)

また、福井市要保護児童対策地域協議会(要対協)での役割を担っており、実務担当者会議へ年12回、個別ケース検討会議へ70回の参加をした。要対協対象児童の中でも、養育者の育児不安や心の不調などの気がかりな子育て家庭約60件について担当し、来所面談や家庭訪問、関係機関との連携を行うなどの対応を行った。

【子ども虐待防止オレンジリボン運動】

「大好き。こどもの笑顔。みんなの笑顔。」をコンセプトに、福井市ならびに子育て支援団体や企業等と協力して啓発活動(表3)を行った。福井市ボランティアnet.にボランティアサポーター募集や啓発活動の開催の告知を投稿し、福井市社会福祉協議会からは、啓発活動の取

材を受け社協機関誌の表紙に取り上げていただいた。このように、広く広報活動を行ったことで、地域の大学生や高校生、一般企業の社会人やNPO団体など多くの市民ボランティアサポーターの参加協力を得ることができた。

今年度は、11月の児童虐待防止啓発月間に例年開催している「福井市オレンジリボン運動こども笑店」を「子

表3. オレンジリボン運動(児童虐待防止啓発運動)の活動実績

項 目	日 程 (平成30年)	会 場
街頭啓発	7月22日(日)	ショッピングセンターアピタ福井店
	7月22日(日)	ショッピングシティBell
	9月17日(祝・月)	ショッピングセンターパリオCITY
	9月17日(祝・月)	ラブリーパートナー Lpa
	11月1日(木)	福井駅前西口ひろば
こども笑店	11月23日(金・祝)・24日(土) FBC主催 第7回 子育て応援団 すこやかふくい2018	福井県産業会館 1号館・2号館



オレンジリボンすこやかふくい



パリオCITY: NPO 団体・ボランティアサポーター



子育て応援団すこやかふくい2018: ステージ啓発



子育て応援団すこやかふくい 2018 に出展

育て応援団すこやかふくい」にて出展開催した。すこやかふくいは、福井の子育てに積極的な企業や団体が結集する一大イベントとして子育て家庭には広く知られており、数千人規模での来場者がある。子育て家庭に向けた啓発をするには最適なイベント会場であると考えた。出展した内容は、①子ども虐待の現状を伝えるパネル展示、②子育て支援情報の設置、③啓発パンフレットの配付、④メインステージでの啓発、⑤子育て支援団体による話題提供、⑥親子で楽しむ遊びの提供。本学園学生、NPO子育て支援団体、地域の子育て家族サークル、大学生同好会、こども食堂、全国社会奉仕団体、オレンジリボン運動応援企業、さらには個人参加のボランティアサポーターや朝倉ゆめまろが一致団結して啓発に取り組んだ。



福井市&福井仁愛学園 子ども虐待防止



オレンジリボン運動 こども笑店 2018

【生活科学学科の学外授業】

今回、初めての取り組みとして、11～12月に3回シリーズで、子ども虐待未然防止を目的にした、子育ての不安を気軽に相談してもらえるダイヤル情報をどのように伝えようと効果的なのかということ、本学園短大生活科学学科の学生16名に考えてもらうことにした。その過程として、第1回は、子育て家庭の現状や子ども虐待の実態を福井市児童虐待防止啓発出張講座にて学び、第2回は、こども笑店に参加し、来場者親子にゲーム感覚のアンケートをしたり子育ての情報を伝える啓発をしたりするなど、来場者とのコミュニケーションを図りながら実践的な学びを行った。第3回のまとめでは、子育て相談ダイヤル情報カードのプレゼン発表を行った。生活科学学科の学生にはなじみの薄いテーマであったかと思うが、子育て家庭という対象に情報を伝えることを共に考え、より効果的に伝えるための工夫やアイデアを提示してもらうことが出来た。



生活科学学科 演習授業（学外）

